

第44回航空政策セミナー

インバウンド 4000 万人 増す業務量・不足する人員・職場の安全 ～持続可能なグランドハンドリングに向けて～

<本日の報告>

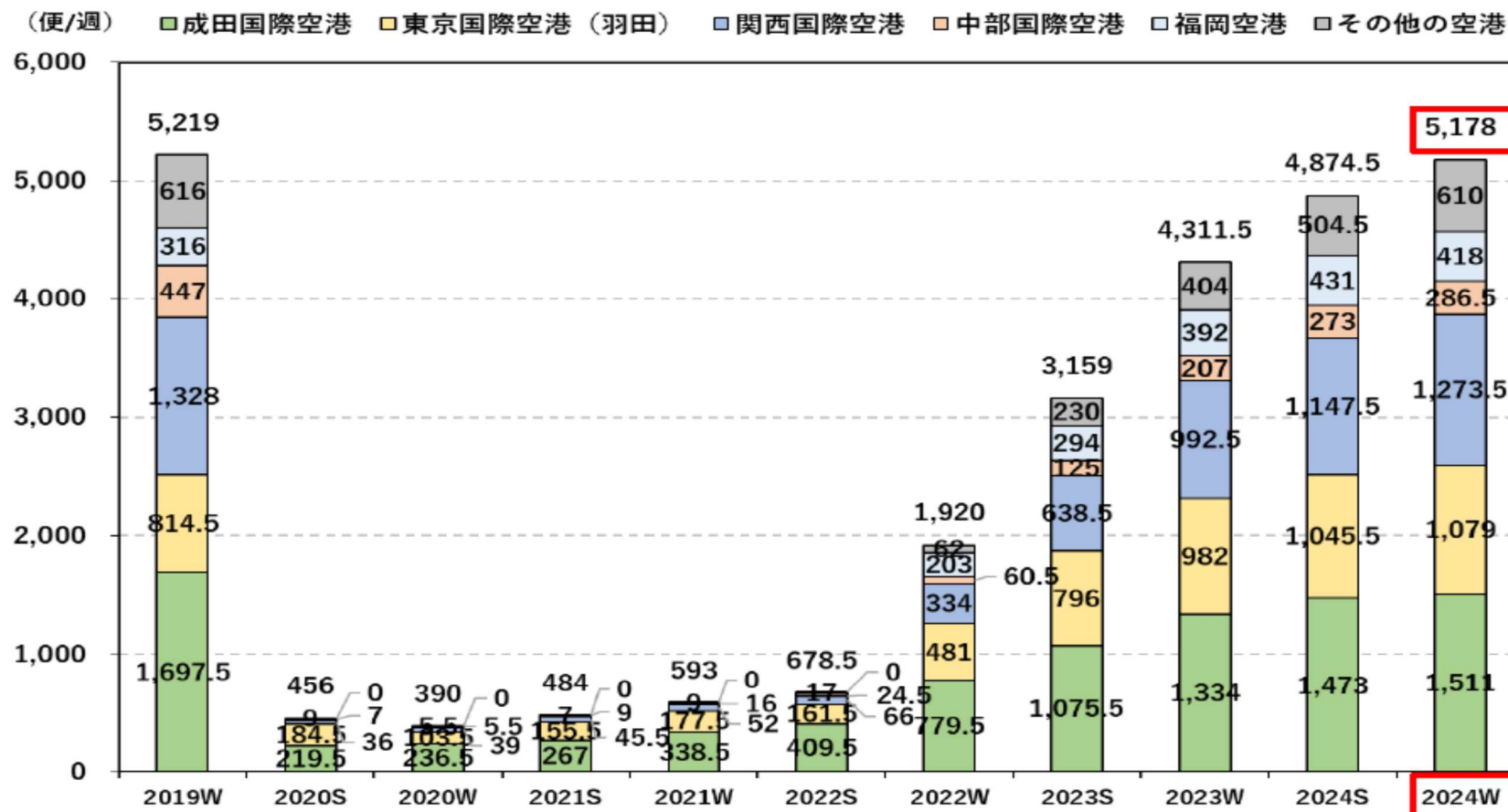
1. グランドハンドリングを取り巻く現状
2. 不安増す職場の安全～後を絶たない不安全事故
3. 2025 年をめぐる動向
4. グランドハンドリングの持続的発展に向けて

報告：谷口 武

1. グランドハンドリングを取り巻く現状

(1) 増加する国際線 国際線定期便の推移 国交省データより

空港別の国際旅客定期便の便数の推移



※いずれも各期の当初時点での第1週目の計画便数の値。

▶ 2024年S対比 106%、2023W対比 120%

(2) 主要空港の発着回数の変化

カッコ内は 1 日の発着回数 際＝国際線

空港	2023 年			2024 年			23/24 比 上段：合計対比
	合計	国内線	国際線	合計	国内線	国際線	
新千歳	147,536 (404)	134,098 (367)	13,438 (37)	149,632 (409)	132,739 (363)	16,893 (46)	101% 際 126%
成田	209,927 (575)	51,082 (140)	158,845 (435)	242,071 (661)	51,093 (140)	190,978 (522)	115% 際 120%
羽田	464,910 (1,274)	371,756 (1,019)	93,154 (255)	480,022 (1,312)	366,470 (1,001)	113,552 (310)	103% 際 122%
中部	80,812 (221)	58,096 (159)	22,716 (62)				
伊丹	138,004 (378)	138,004 (378)	—	137,286 (375)	137,286 (375)		
関空	157,162 (430.6)	50,134 (137.4)	107,028 (293.2)	193,134 (528)	48,028 (131)	145,106 (396)	123% 際 136%
福岡	182,264 (499)	145,986 (400)	36,278 (99)				
沖縄	154,242 (422)	143,418 (393)	10,824 (30)				

■貨物量

成田：2023 年／1,870,859 t (5,126 t／日) 2024 年／1,945,795t (5,316t／日)

関西：2023 年／732,630t (2007t／日) 2024 年／757,256t (2069t／日)

（３）羽田空港グラハン２社の作業量の変化

JGS：JAL グランドサービス、JAL グループのグラハン会社

ANAAS：ANA エアポートサービス、ANA グループのグラハン会社

①JGS の作業量と人員

	作業量／取扱い便数／日			出面／日		新入社員
	国内線	国際線	合計	計画	実績	
2023 年 12 月	391 便	119 便	510 便	774 名	735 名	40 名
2024 年 12 月	391 便	136 便	527 便	817 名	826 名	29 名
前年同期比	100%	114%	103%	105%		

	作業量／取扱い便数の推移			
	国内線	国際線	外国社	合計
2023 年度	70,854 便	11,707.5 便	7,328.5 便	89,890 便
2024 年度上期	70,709 便	12,358.0 便	8,020.0 便	91,087 便

▶24 年度上期で 23 年度分の取り扱い便数を上回る。

②ANAAS の作業量

4 月～11 月	作業量／取扱い便数の推移			
	国内線	国際線	外国社	合計
2023 年度	46,909 便	8,780 便	3,783 便	便59,472 便
2024 年度	45,560 便	10,094 便	4,365 便	便60,019 便
前年同期比	97%	114%	115%	101%

(4) JGS と ANAAS の採用数と退職者数の推移

	年度	採用数	退職者数
JGS	20～22	191 名	315 名
	23	270 名	149 名
	24	366 名 (特定 1 号 85 名含)	69 名 (上期)
	25 (1 月)	142 名 (中途 53、事前 研修 66、特定 23 含)	
ANAAS	20～22	612 名	1204 名
	23	585 名	398 名
	24 (4-12)	530 名	199 名
	25		
※グラハン連調べ			

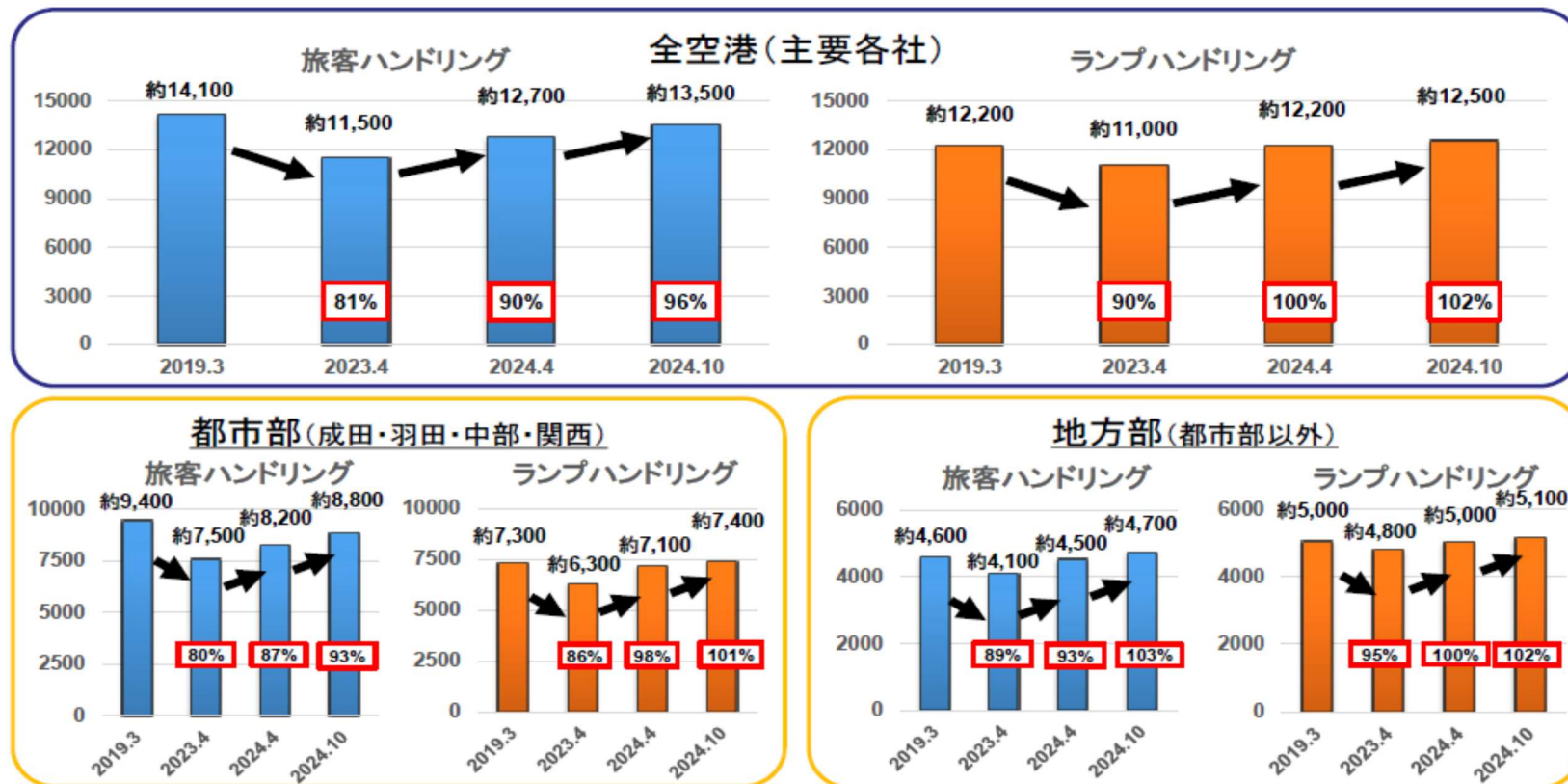
- ▶20 年～22 年はコロナ禍の影響受け、2 社ともに退職者数が採用数を大幅に上回る。
ANAAS の退職者数は採用数の約 2 倍。
- ▶ANAAS=23、24 年度の採用合計 1155 名、採用後 2 年未満の社員が従業員数の約 3 割。
2 年間の退職者数の割合は採用数の 5 割に上る。
25 年度採用予定 300 名。
- ▶JGS は 24 年度から特定技能 1 号の外国人採用を開始し、25 年度も採用予定。
25 年度の採用予定 274 名。

(5) 全国のグランドハンドリングの体制 国交省調べ

グランドハンドリングの体制(主要各社の従業員数)



- 職員数については、ランプ部門はコロナ前の水準に回復し、旅客部門も近い水準まで回復してきている。
- 職員構成として、採用後3年未満の職員が約4割となっており、引き続き育成と定着が課題となっている。



内はコロナ前(2019.3)比 ※空港給油業・ケータリング業は除く。

- ▶ ランプハンドリングはコロナ前水準に、旅客ハンドリングは戻っていない。特に都市部が不足している。
- ▶ 職員構成：採用後3年未満の職員が4割(24年12月)に増加。24年4月時点では3割。
- ▶ 経験者や有資格者が減って新人が増加か。

（６）外国人人材の現状 国交省調べ

特定技能 1 号（在留資格 5 年）の在留外国人数

グランドハンドリングにおける外国人材の活用



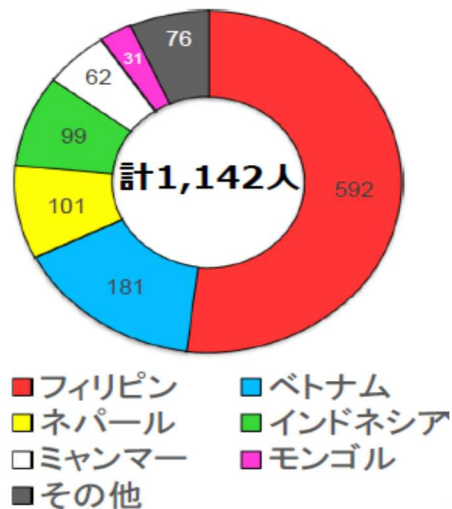
○ コロナ禍の影響により、航空分野における特定技能の活用は限定的であったが、令和5年度に入り、航空需要の急激な回復もあり、特定技能外国人を積極的に受け入れている。

○特定技能1号 在留外国人数(航空分野)



○国籍別内訳

在留外国人数 1,142人
グラハン 1,129人
整備 13人



▶グラハン連調査：2019 年～2024 年末までの合格者数累計／3,723 人。

▶国交省の今後の方針：2024 年 4 月から 5 年間で 4,400 人受け入れ。

2. 不安増す職場の安全～後を絶たない不安全事故
(1) 増加する空港内の事故 国交省調べ

3. 制限区域内事故状況

表1 制限区域内事故(件数)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
作業員の負傷	18	15	13	11	21	16	13	14	17	29
旅客の負傷	4	5	10	1	10	3	0	2	1	9
航空機の損傷	14	15	11	18	18	8	17	16	13	18
計	36	35	34	30	49	27	30	32	31	56

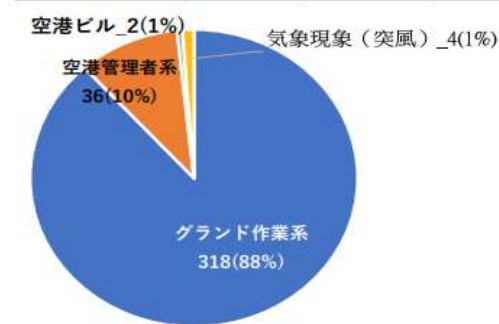


図1 制限区域内事故(原因者別割合)

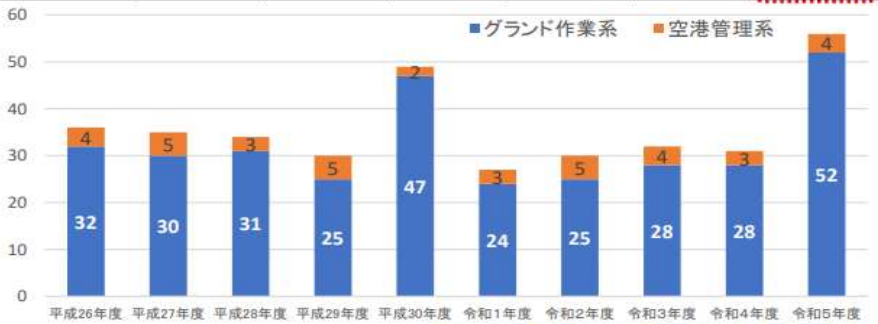


図2 年度別発生件数(原因者別)

毎年度、グランド系作業が8割を超え発生



- ▶2023 年度の制限空域内で発生した事故は 56 件。過去 10 年間で最多。
- ▶毎年グラハンが 8 割を超える。
- ▶こうした状況を受け、国交省は昨年 10 月に「グランドハンドリングにおける安全監督体制の強化に向けたワーキンググループ」を設置。
- ▶同年 12 月、グラハンの監督強化に向けグラハン事業者に対し、直接調査監督ができる制度創設の検討など方向性を確認。

（２）羽田空港グラハン２社の安全をめぐる実態（不安全件数）

JGS			
年度	事故災害 （人身・車両・物損）	イレギュラー （積残し・誤送等）	合計
2024（12/31）	41	50	91
2023	21（38）	37（15）	58（53）
2022	11（18）	23（9）	34（27）
2021	9（17）	8（13）	17（30）
2020	12	12	24
2019	30	17	47

- ▶ 昨年５月、プッシュバック機の翼端を隣の航空機の翼端に接触事故。
- ▶ 21～23 年度のカッコ内は参考事象。
- ▶ 参考事象加えた件数：2023 年度 111 件、22 年度 61 件、21 年度 47 件。

ANAAS							
年度	CATⅢ	CATⅡ	保安	車両施設 損傷	人身	ULD 落下	合計
2024（11 月）	6	30	11	30	8		85
2023	4	41	28	19	7	8	107
2022	5	23	33	12	4	6	83
2021	2	9	3	6	1	0	24
2020	2	13	3	17		0	35
2019	4	19	14	32	4	5	78

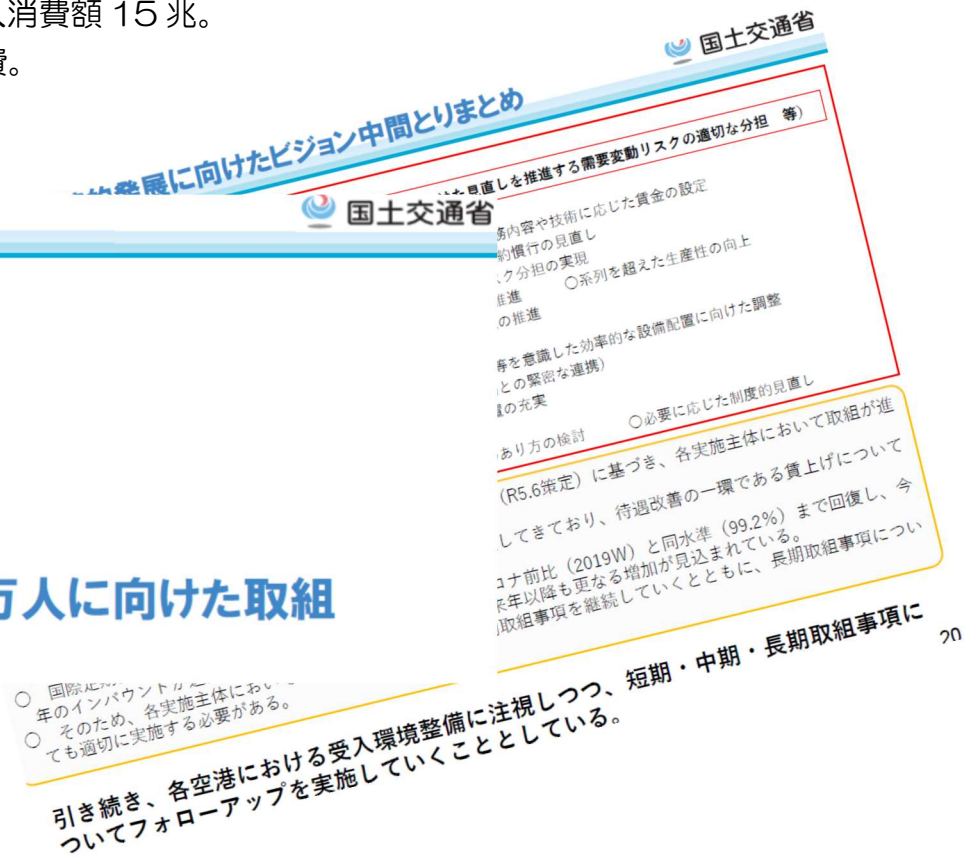
- ▶ 資格取得訓練中の事故 2 件。

3. 2025 年をめぐる動向

(1) 予想されるインバウンド 4000 万人

- ▶2024 年 3650 万人／訪日外国人消費額 8 兆 1395 億円（2023 年 5 兆 3065 億円）。
- ▶2025 年 4000 万人／訪日外国人消費額 10 兆円？
- ▶政府目標 2030 年 6000 万人／訪日外国人消費額 15 兆。
- ▶日本経済・地方経済を支える訪日外国人消費。

インバウンド2030年6000万人に向けた取組



（２）大手２社の国際線増便計画と発着枠拡大

①ANA と JAL の 2025 年夏期（3/30～10/29）運航ダイヤ

ANA グループ＝国際線便数 25 年度通期で 24 年度比 8%増。

JAL グループ＝国際線便数 25 年度夏期は 24 年度比 5%増。

②成田空港、発着枠を 30 万回から 34 万回に拡大

25 年 10 月から実施へ／2029 年 3 月末、第 3 滑走路運用、年間発着枠 50 万回。

2024 年の発着回数＝24 万回 2019 年／26 万 4115 回／1 日 724 回。

日中運航権益拡大＝日中企業に週 410 便。

③関西 3 空港（神戸空港・伊丹空港・関西空港）の発着枠拡大

関空と神戸空港の飛行経路見直し＝25 年 3 月 30 日～。

関西空港：1 時間の発着枠 45 回から 60 回に拡大・・・2030 年代前半に年間発着枠 30 万回（現在 23 万回）。

神戸空港：1 日の発着枠 80 回から 120 回に拡大／春から国際線チャーター受け入れ。

2030 年代前半に 1 日 160 便に拡大／国際定期便受け入れ。

大阪・関西万博＝25 年 4 月 13 日～10 月 13 日の 6 カ月間。

※航空局長の年頭あいさつ

国際線の需要を引き受ける事は容易でない。グラハン、保安検査、構内バス、燃料供給等は厳しい状況。さらに整備士、操縦士も不足することが想定される。現場の人手不足問題を一気に解決する魔法の杖はないため、処遇や職場環境の抜本的な改善等、できることは全て行う。

4. グランドハンドリングの持続的発展に向けて

- ✓グランドハンドリングや保安検査員など空港の受け入れ体制強化
- ✓社会的に注目されるグランドハンドリング
- ✓魅力あるグランドハンドリングへの転換

(1) 国際線旅客の増加を見越した施設や設備の見直し

- ▶施設や設備の点検と拡充

(2) 人材確保と定着の取り組み

- ▶賃金引上げをはじめ労働条件の抜本的な見直し

(3) 資格者の育成

- ▶資格取得訓練の拡充。ガイドラインの作成。教官の育成



「持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会」の中間とりまとめ

2024 年度以降の取り組み事項

<グラハン会社に対して>

○短時間労働やマルチタスク化を含む多様な働き方の実現

○業務内容や技術に応じた賃金の設定

○人件費圧縮競争を防止する観点からの多重委託構造や雇用慣行・契約慣行の見直し

<業界に対して>

○労使間の対話の推進

○就航メリットを享受する主体間のリスク分担の実現

○特定技能制度の継続的なフォローアップ及び活用に向けた取組の推進

○系列を超えた生産性の向上

○業界ルール整備を前提とした、専門学校との連携強化や共同訓練の推進

○空港業務に関する基礎的データの収集・整理

25 春闘ともに頑張りましょう！！

<参考>

失われた 20 年～賃金水準の引き上げ急務

■24 年の賃金水準（月例）

年齢	JGS	ANAAS
20	23.8 万円	27.2 万円
30	29.3 万円	32.2 万円
40	34.7 万円	37.5 万円
50	36.2 万円	39.4 万円
59	36.2 万円	39.6 万円

※JGS：標準評価で昇進前提。50 歳、59 歳は J2 頭打ちの賃金。

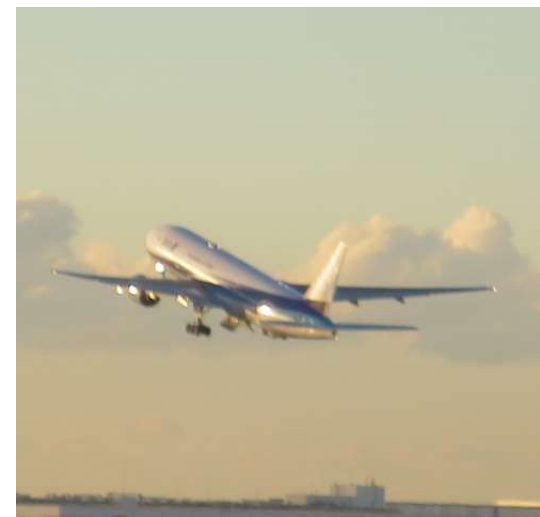
※ANAAS：G3（30 歳から 40 歳の格付け）以上は昇給試験合格が条件。
支給総額＝基本給＋扶養手当＋住宅手当＋シフト手当＋資格手当。59 歳の基本給は上限額とした。夜勤を含まないシフト勤務。

■2005 年当時の賃金水準（月例）

年齢	AGS	TAS	GAS	OAS
20	25 万円	24.9 万円	24.1 万円	23.5 万円
30	34.2 万円	33.9 万円	33.1 万円	33.8 万円
40	42.5 万円	42.8 万円	41.8 万円	41.1 万円
50	48.4 万円	49.5 万円	49.4 万円	46.9 万円
59	48.8 万円	50.6 万円	50.7 万円	49.9 万円

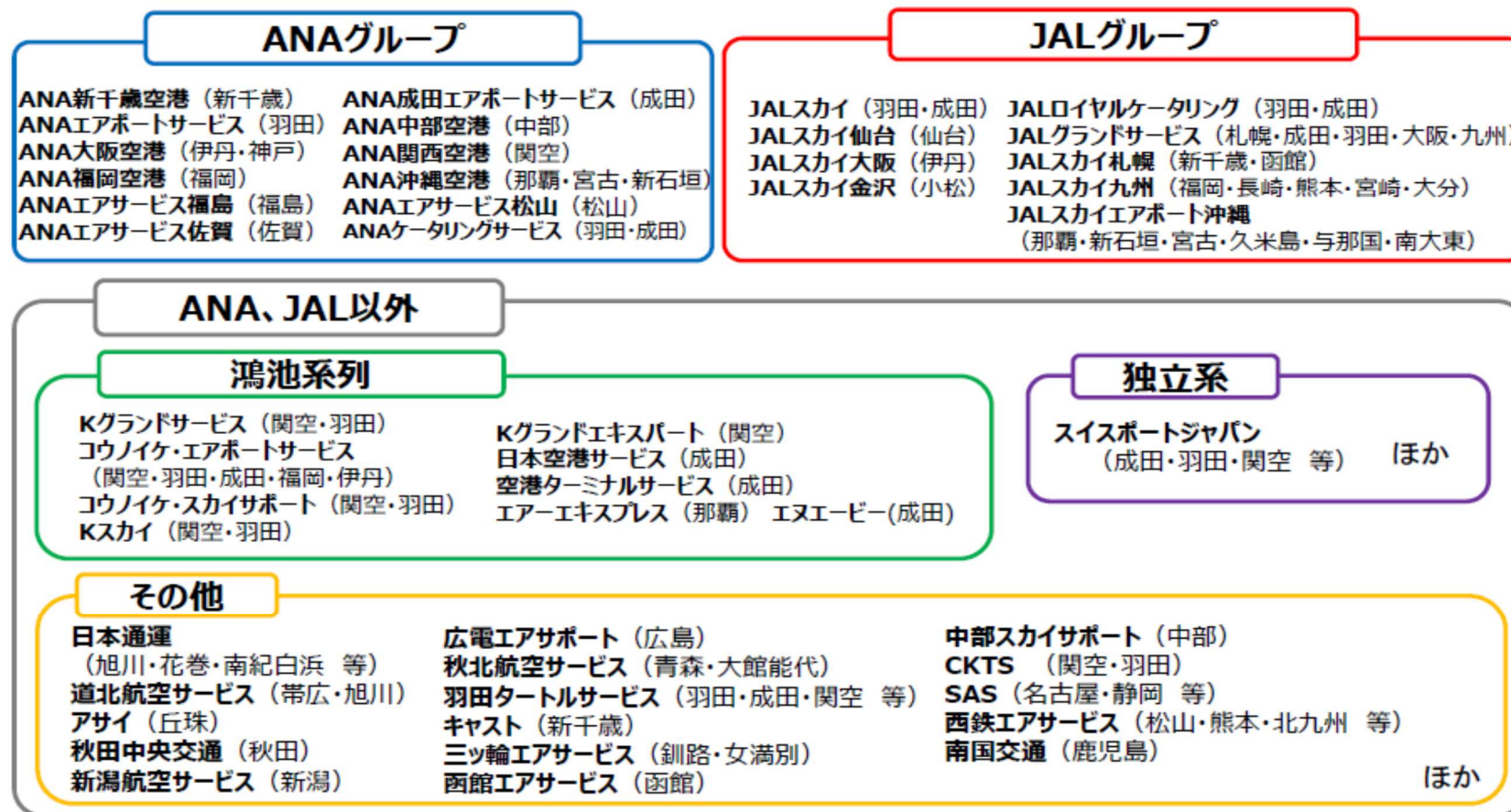
※金額は、当時の各社の基本給＋住宅手当＋家族手当＋シフト手当など一定の条件を基に試算。（夜勤含まないシフト勤務）

ANAAS・A さん（50 代）の年収：22 年／510 万円、23 年／587 万円、24 年／673 万円



主なグランドハンドリング事業者

- グラハン事業者は、二次、三次委託の事業者を含め、**全国に約400社存在**。（国土交通省による把握）
- 全国展開をするANAグループやJALグループのほか、特定の地域を中心に展開する会社、地元の交通会社等、その規模は多種多様となっている。



<< ご清聴ありがとうございました >>